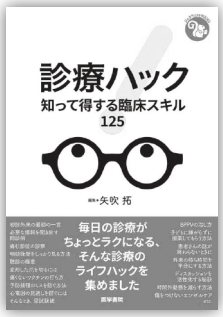
書評



《ジェネラリスト BOOKS》

診療ハック

知って得する臨床スキル 125

編 矢吹　拓

A5・頁 352　2025 年 3 月
定価：4,620 円（本体 4,200 円+税 10%）
［ISBN978-4-260-06018-9］医学書院刊

経験豊富な臨床医が編み出した，診療現場で即戦力となる実践的スキルの宝庫

［評者］**中島　啓**（亀田総合病院呼吸器内科主任部長）

本書籍は，経験ある臨床医が編み出した実践的スキルの宝庫である。現代の医療においては evidence based medicine（EBM）を実践することは重要である。しかし，実際の臨床においては，EBM だけでなく，実診療におけるさまざまな「コツ」，「実践知」（＝特定の状況下で有用な知恵），「創造的な問題解決法」が存在する。これらは言語化しづらいため，暗黙知として，経験ある医師が個人で身につけていることが多い。本書籍は，このような「診療におけるライフハック」（＝診療ハック）を，経験ある臨床医たちが惜しみなく公開した，実臨床の現場で大変有用な書籍である。

本書の中から，特に私の心をつかみ，日々の診療に新たな視点を与えてくれそうな「診療ハック」をいくつか紹介したい。

まず，「患者さんとスタッフの名前を覚えよう，意識しよう」というハック。患者さんやスタッフの名前を記憶して意識して呼ぶことは重要である。私自身も外来や病棟のスタッフを名前で呼ぶことを心掛けており，これがチーム医療を円滑に進める上での信頼関係構築に不可欠であると実感している。

次に，「持続的な症状を確認するときは『症状がなかった時間』がないか聞く」という問診スキル。日常診療において，こちらの医学的意図が正確に患者さんに伝わらないことは少なくない。この問いかけ 1 つで，「いいえ」であれば持続的症状と判断できるという明快さには感銘を受け，まさに明日からの外来で活用したいと強く感じた次第である。

さらに，「看取り時に家族が求めていることを理解する。冷静で誠実な態度。清潔感のある身だしなみ。所属と名前を名乗る。事務的にならず落ち着いた雰囲気をつくる」という看取り時のスキル。私は呼吸器内科医なので，肺がん，COPD の終末期にあたる入院患者を診ることが多い。私にとっても，あらためて看取りにおける重要ポイントを理解することができ，若手医師の指導にも有用な内容である。

これら以外にも，「若年者で多発転移がんをみたら，AFP, hCG を測る。高値なら胚細胞腫瘍」「ティッシュを用いたベッドサイドの呼吸機能検査」「外来一人診療で待ち時間を半分に減らす方法」「薬を減量したいが患者が不安を感じる場合は，薬を同量で一旦出しておく」といった，具体的な状況下で即応用可能な「診療ハック」が満載である。このような優れた実践知が，問診から診察，治療・処方，マネジメント，コミュニケーションスキル，さらには学術活動の秘訣に至るまで，広範な領域にわたり 125 項目も網羅されているのは圧巻である。

本書は，これから医療の最前線に立つ初期研修医にはもちろんのこと，ある程度経験を積み，さらなる診療の質の高みをめざす若手・中堅医師にとっても，診療科を問わず，日々の臨床に寄り添う心強い伴侶となるだろう。ベテラン臨床医にとっても，自分が暗黙知として実践している臨床ハックの再確認になると同時に，他の医師が編み出したハックを知ることは有用である。多忙な日常の中で新たな気付きや実践的な解決策を求めるすべての臨床医に，自信を持って推奨したい一冊である。

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2026

2026/11/11 09:18:15